



2026年5月12日

各 位

上場会社名 株式会社クイック  
代表者 代表取締役社長 川口 一郎  
(コード番号：4318 東証プライム市場)  
問合せ先責任者 取締役執行役員管理本部長兼経理部長  
来島 健太  
(TEL：06-6366-0919)

### 「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」に関するお知らせ

当社は、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について、ご説明する資料を作成しましたので、お知らせいたします。

詳細につきましては、添付資料「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」をご参照ください。

以上

# 資本コストや株価を 意識した経営の実現に向けた対応

2026年5月12日

株式会社クイック

東証プライム市場（証券コード：4318）

## 現状分析 必要以上の現預金・株主資本の蓄積が資本効率の低下を招いている

- 過去4期のROEは20%を超えて推移しており、当社が認識する株主資本コストを大きく超過
- 一方で、営業CFと利益の蓄積を背景に現預金・株主資本比率が上昇傾向にあり、B/Sの効率性に課題あり
- 資本収益性の向上には、現預金の適正な活用と、株主資本の過度な拡大の抑制が必要

## 取組み 中長期的な企業価値の向上に向けた投資の拡大と株主還元強化を実施

- 27年3月期から29年3月期までの3年間は、人的資本投資・既存事業投資・新領域投資を大幅に強化
- 27年3月期より「下限配当（38円）」を導入。29年3月期までの3年間は、下限配当と配当性向70%のいずれか高い方を採用。加えて3年間合計30億円以上の自己株取得により、総還元性向は100%超となる見込み
- 投資効果の実現を通じた利益成長と資本効率の改善により、中長期的な企業価値の向上を目指す

- 01** 現状分析
- 02** 企業価値向上に向けた取組み
- 03** Appendix

## 01 現状分析

## 02 企業価値向上に向けた取組み

## 03 Appendix



# 補足：最近の主な取組み

- 2025年は、流動性向上のための取組みとして、株式の立会外分売および株式分割を実施
- 短期・中長期の両面から企業価値・株主価値向上を目指すキャピタルアロケーション方針を策定

## 流動性と企業価値・株主価値向上に向けた対応

25年2月10日

### 株式の立会外分売

主要株主が保有する株式のうち900,000株の立会外分売を実施。  
申し込み倍率は22倍を超え、期間内に分売終了。当社株式の流動性向上にも寄与。

25年10月10日

### 株式分割

1株につき、3株の割合をもって株式分割を実施。  
投資単位当たりの金額を引き下げることにより、株式の流動性の向上と投資家層の拡大を期待。

26年4月30日

### 株主還元方針見直し

「下限配当（38円）」を導入。27年3月期~29年3月期は、配当性向の目安をこれまでの50%から70%に引上げ。  
今後3年間合計で30億円以上の自己株取得を実施予定。3年間の総還元性向は100%を超過する見込み。

26年5月12日

### 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応の更新

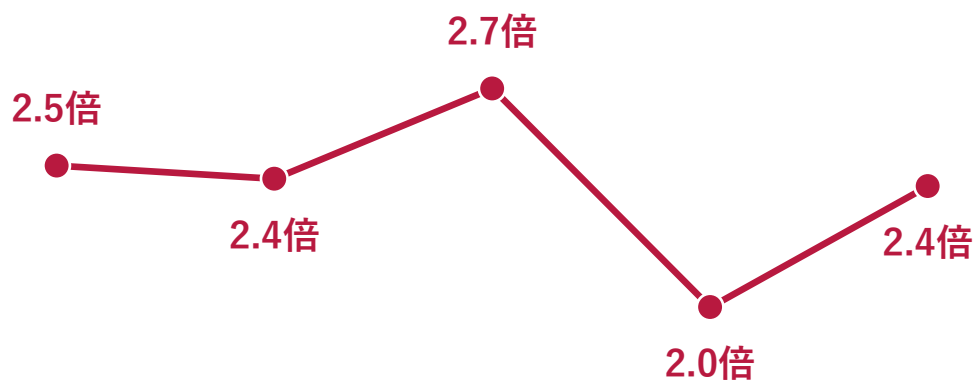
本計画により、今後3年間のキャピタルアロケーション方針を公表。  
株主還元方針変更により短期的な株主利益に配慮すると共に、中長期的な成長に向けた投資を加速。

# PBR・ROE実績

- 株主資本コストを上回るROEを背景として、PBRは2倍以上の水準が継続
- 今後も、株主資本コストを上回るROE水準を維持しながら、中長期的な企業価値の向上を目指す

## PBRの推移（過去5期）

過去5期の期末PBRは2倍以上の水準が継続

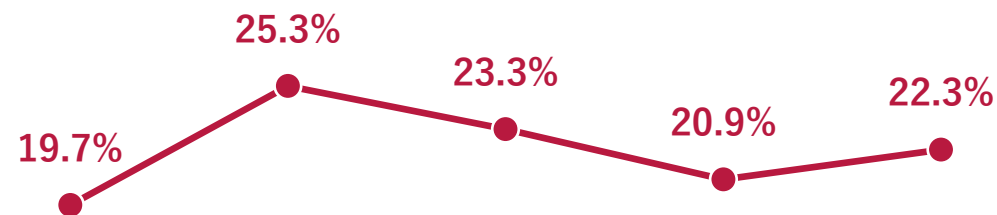


PBR1.0倍

22年3月期 23年3月期 24年3月期 25年3月期 26年3月期

## ROEの推移（過去5期）

ROEは株主資本コストを大きく上回り推移



株主資本コスト当社推計値  
9~10%

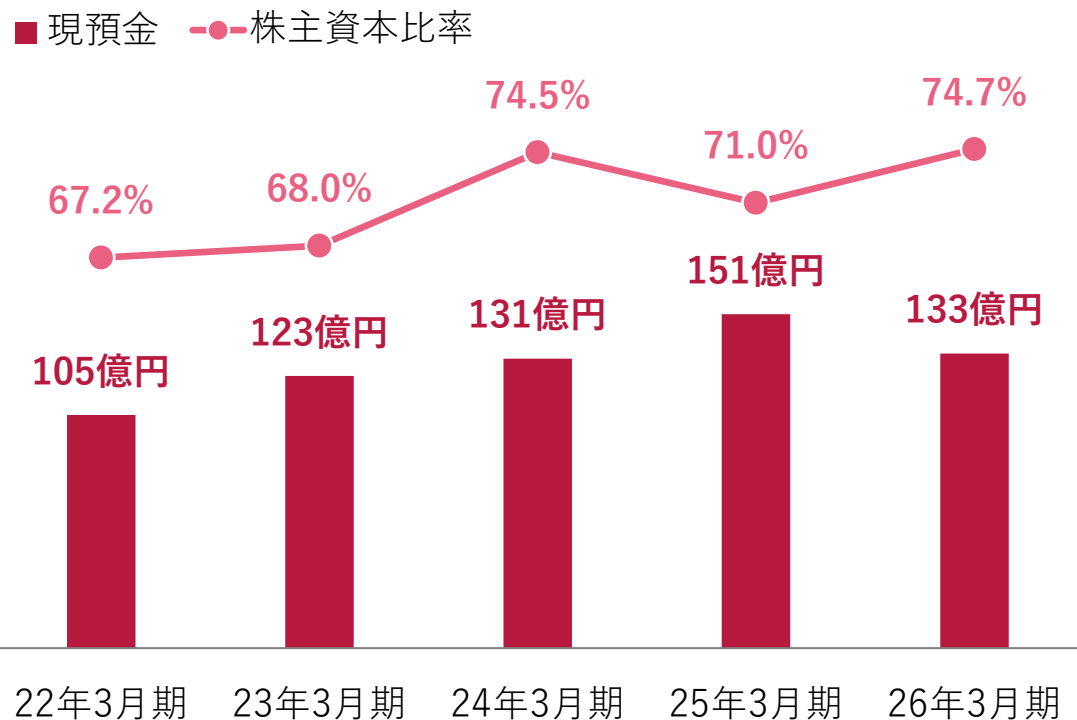
22年3月期 23年3月期 24年3月期 25年3月期 26年3月期

# B/Sの効率性

- 安定的な利益計上を背景に、現預金と株主資本の蓄積が進んでいる
- 資本効率の向上には、現預金の適正な活用と、株主資本の過度な拡大の抑制が必要

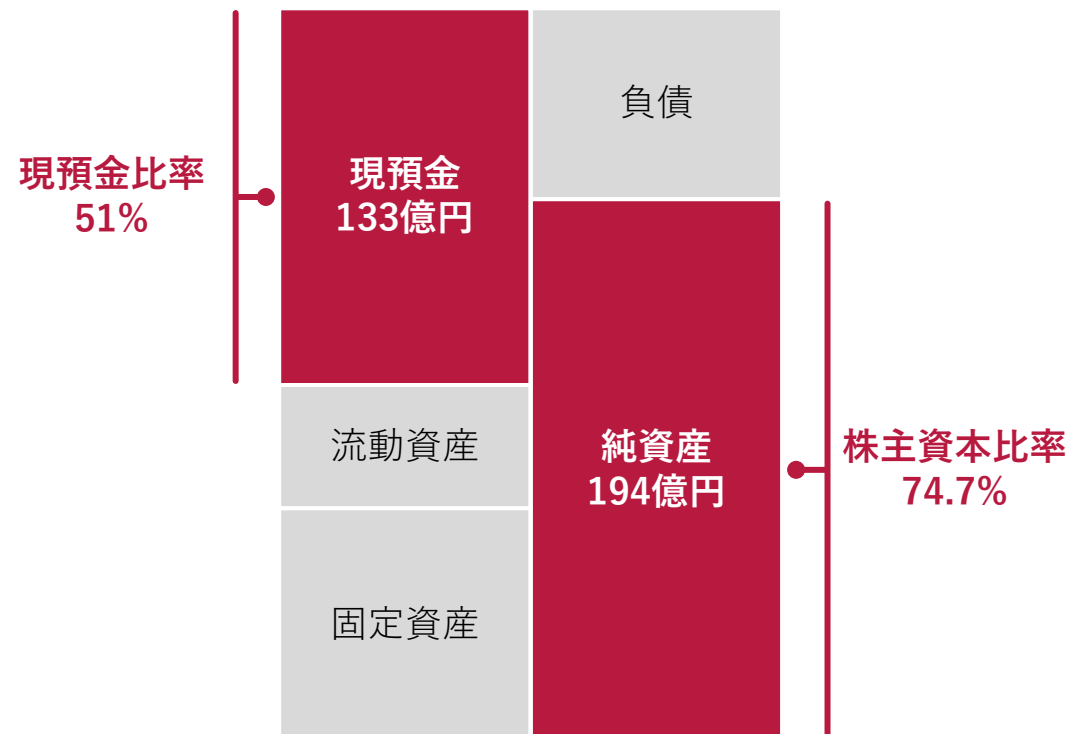
## 現預金・株主資本の推移（過去5期）

営業CFと利益の蓄積により現預金・株主資本比率が上昇



## B/Sの状況（26年3月期）

資本効率の向上には現預金の適正活用と、株主資本の必要以上の拡大を防ぐことが必要



01 現状分析

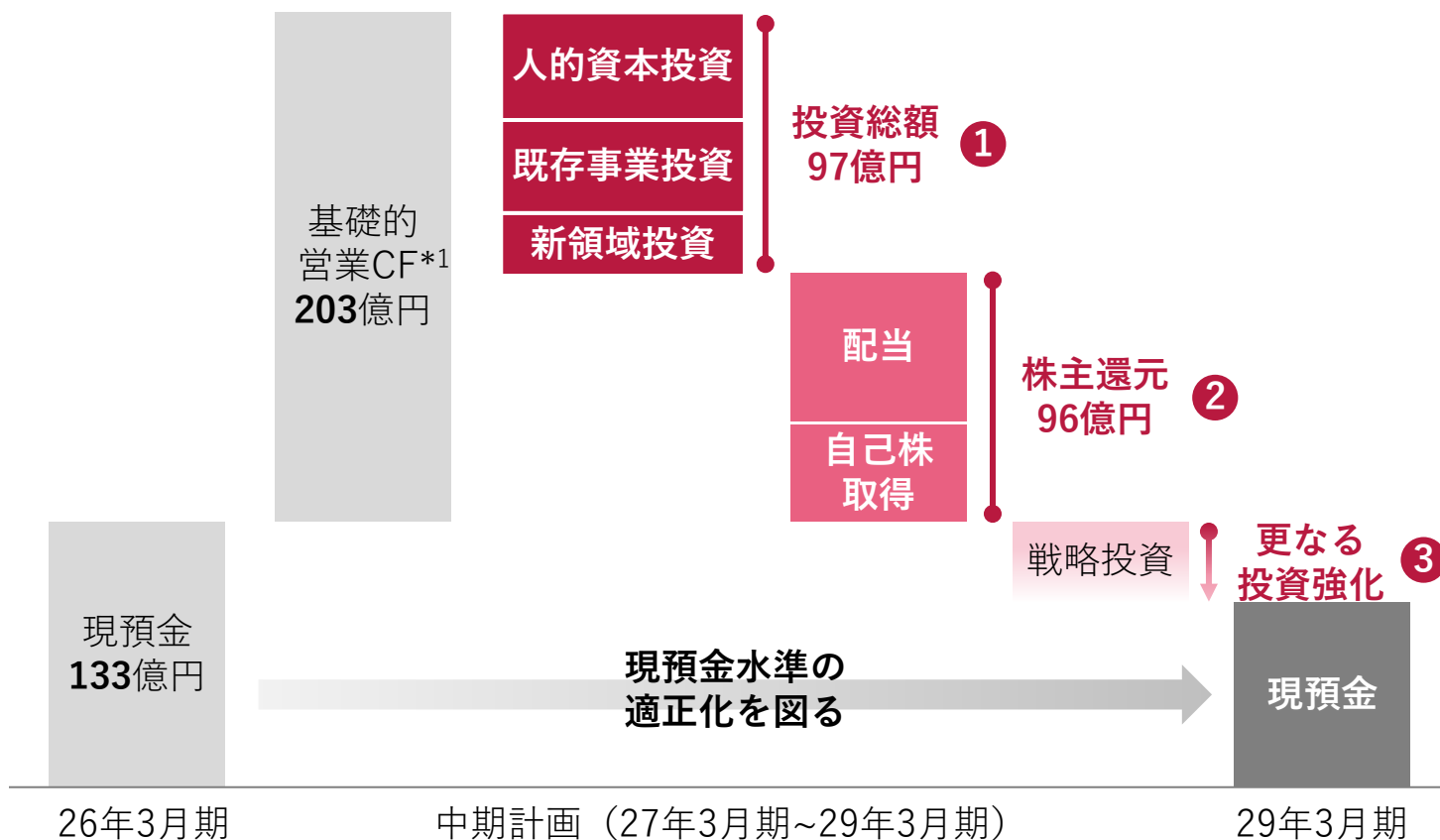
**02 企業価値向上に向けた取組み**

03 Appendix

# キャピタルアロケーション

- 中長期的な成長を実現するための投資を加速すると共に、株主還元強化に取り組む
- バランスシートの適正なマネジメントにより資本効率の改善を図る

中期計画期間のキャピタルアロケーション（27年3月期～29年3月期）



優先順位

- ① 中長期的成長に向けた投資強化
  - 人的資本投資：能力開発、採用強化、インセンティブ付与等
  - 既存事業投資：システム開発、プロモーション強化、拠点拡大等
  - 新領域投資：旗艦サイト立上げ・強化等
- ② 資本効率向上に向けた株主還元拡充
  - 新たに「下限配当（38円）」を導入。27年3月期～29年3月期は、配当性向70%といずれか高い方を採用
  - 加えて3年間合計で約30億円以上の自己株取得を実施
- ③ 戦略投資の実施
  - 事業領域拡大、DX投資、他社との戦略的アライアンス、M&A等

\*1：費用性投資実施前の営業CF

# 中長期的なROE向上

- 中長期的な成長に向けて資金を投下（費用性投資拡大により一時的に減益見込み）し、株主還元も強化
- 投資効果の実現を通じた利益成長と資本効率の改善により、中長期的なROE向上を目指す

中期計画（27年3月期～29年3月期）

中長期的成長

中長期的な成長に向けた投資強化



人的資本



既存事業



新領域

+



戦略投資

投資効果の実現を通じた利益成長

更なる向上

29年3月期ROE  
16%

資本効率向上に向けた株主還元強化

総還元性向100%超(見込み)

下限配当38円or配当性向70%  
(27年3月期～29年3月期)

+

自己株取得  
3年合計約30億円以上

資本効率向上に向けた株主還元策の継続検討

# 投資計画

- 中長期的な成長を実現するため、本中期計画期間（27年3月期～29年3月期）においては人的資本、既存事業、新領域の各分野への投資を拡大

## 投資計画の概要（27年3月期～29年3月期）



### 新領域投資

- 人材紹介領域における旗艦サイト『アンドプロ』の立ち上げ、Youtubeチャンネルの開設およびプロモーション強化等の実施



### 既存事業投資

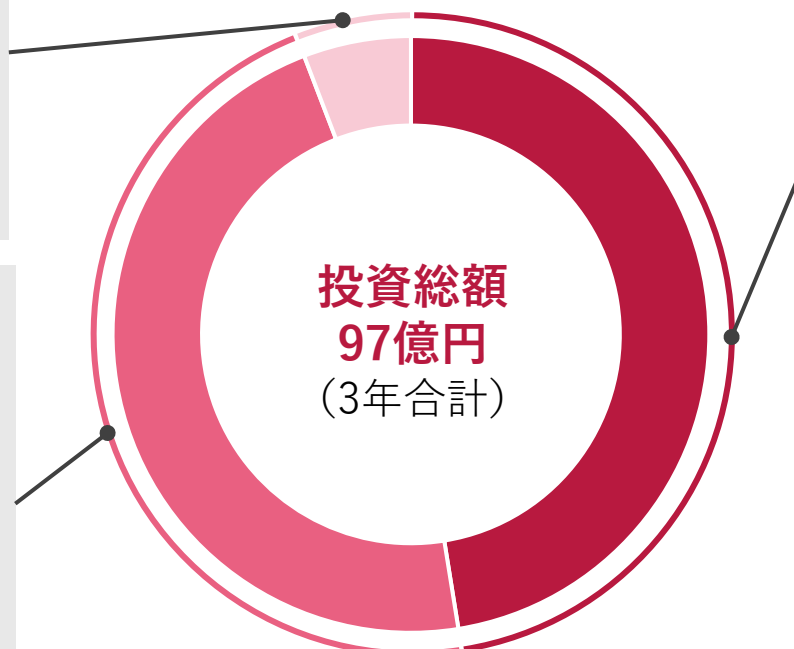
- 看護師転職・就職支援領域におけるサイト機能強化、アプリ機能強化、プロモーションの強化を実施
- 生産性向上を目的とした社内システムやAI等のシステム投資を実施
- 拠点拡張、移転の実施
- 外部パートナーの新規活用



### 人的資本投資

- 既存社員の待遇向上
- 新卒・中途採用経費および人件費への投資
- ワークエンゲージメント向上、企業価値向上へのインセンティブ強化を目的とした従業員向けRSの導入

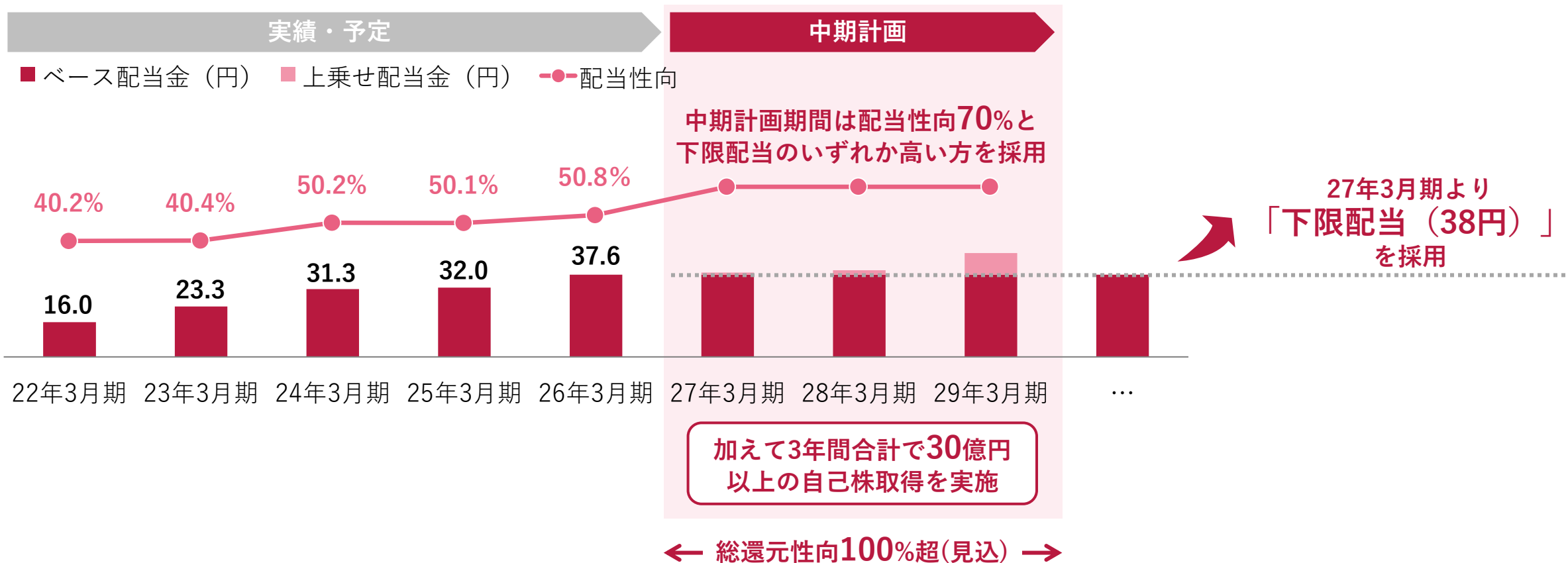
※上記実施のほか、働きやすい環境づくり、制度設計にも注力していく予定



# 株主還元方針

- 27年3月期より「下限配当（38円）」を導入。中期計画期間は、配当性向70%と下限配当のいずれか高い方を採用。加えて合計30億円以上の自己株取得により、総還元性向は100%超となる見込み

中期計画期間の株主還元方針（27年3月期～29年3月期）



注：記載している配当金は2025年11月30日を基準日とする株式分割（1株につき3株の割合）の影響を考慮。

01 現状分析

02 企業価値向上に向けた取組み

**03 Appendix**

# 資本コストの低減

- 株主・投資家から見た不確実性を低減させるため、還元方針見直しによる予見性の向上を図るとともに、IR/SR活動を強化し、双方向の対話と積極的な情報発信を推進

## 資本コスト低減に向けた取組み

### 1 株主還元指標見直し

- 現在採用している「配当性向50%」の株主還元指標では、投資拡大の減益局面において、減配の懸念を生じさせる可能性がある
- 株主の皆様の予見可能性を高め、安定的な配当を目指すための指標として、新たに「下限配当」を採用

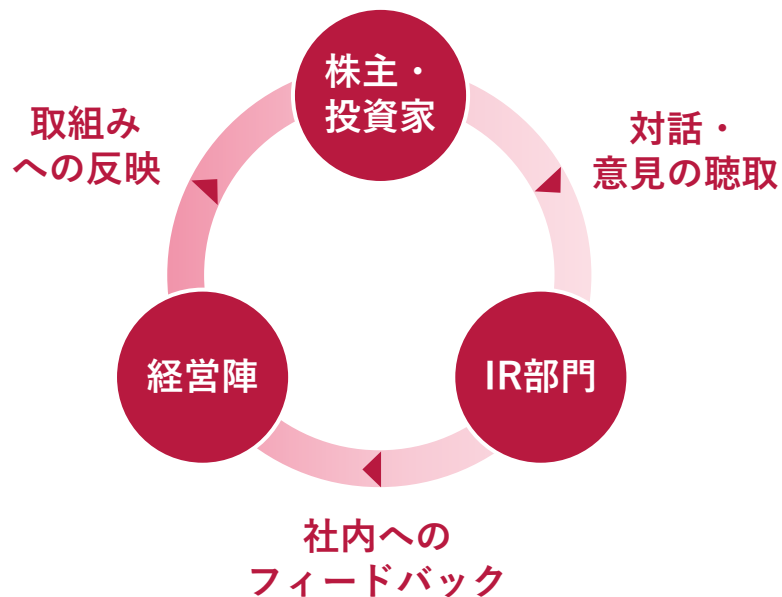
### 2 IR/SRの強化

- 株主との情報の非対称性解消に向け、これまで以下の取組みを実施
  - 決算説明会の書き起こし記事（ログミーFinance）の公開
  - 個人投資家向け説明会の開催
  - 投資家向けの専門媒体への記事掲載
  - スポンサーレポートの発行（株式会社フィスコの「企業調査レポート」）
- IR/SR活動の更なる強化に向け、**今期以降以下の取組みを検討中**
  - 新規海外機関投資家とのオンライン面談の設定
  - 既存の個人株主向け事業説明会（東京開催）の開催回数増加（年間1回→2回）
  - 国内機関投資家向けの面談件数増加
  - 第1四半期、第3四半期の決算説明資料公開

# 株主・投資家との対話

- 株主・投資家との対話結果は適宜経営陣にフィードバックし、具体的な施策へと反映している

## 株主・投資家との対話を踏まえた対応



### 株主・投資家の意見

現預金の活用方針を示してほしい

株主還元の  
予見可能性を高めてほしい

株式の流動性向上に向けた  
対応を検討してほしい

政策保有株式の保有意義を  
検証してほしい

英文開示を充実化してほしい

事業概要をわかりやすく  
説明してほしい

### 当社の対応

今後3年間のキャピタル  
アロケーション方針を公表

新たな株主還元指標として  
下限配当を採用

立会外分配、株式分割を実施

改めて保有意義を検討し、  
一部株式を売却

決算短信の日英全文同時開示を  
義務化に先立ち開始

新規投資家向け資料を作成し、  
26年3月期より公開



**株式会社クイック 経営企画課**

**<https://919.jp/>**

**TEL : 06-6366-0919**

**E-mail : [keisen-ir@919.jp](mailto:keisen-ir@919.jp)**

この配布資料に記載されている業績目標等はいずれも、当社グループが現時点で入手可能な情報を基にした予想値であり、これらは経済環境、競争状況、新サービスの成否などの不確実な要因の影響を受けます。従って、実際の業績は、この配布資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご了承下さい。